

メンタリングを利用した科研を書くためのWSの設計と実施

山川 修^{*1}, 田中洋一^{*2}, 杉原一臣^{*3}

^{*1} 福井県立大学, ^{*2} 仁愛女子短期大学, ^{*3} 福井工業大学

Designing and holding a workshop for writing an application of KAKENHI

Osamu YAMAKAWA^{*1}, Yoichi TANAKA^{*2}, Kazutomi SUGIHARA^{*3}

^{*1} Fukui Prefectural Univ., ^{*2} Jin-ai Women's College, ^{*3} Fukui Univ. of Technology

We have designed and held a workshop, which has based on teaching and academic portfolio workshop, for writing an application form of KAKENHI. This paper will report the design principle and the schedule of the workshop. And the feedbacks of the participants will be reported for the assessment of the workshop. These say that the workshop was almost good, but there were several points to be improved.

キーワード: メンタリング, TPWS, 科研費

1. はじめに

現在, 大学や高専などのFD活動の一環として, ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ⁽¹⁾ (TPWS) やアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ⁽²⁾ (APWS) が日本各地で開催されている. TPWSは教育に関して, APWSは教育・研究・サービス活動等, 教員活動のすべてに関して, 「なぜそれを行っているか」という理念から具体的な方法までにおよぶ事柄の一貫性を発見する活動であるが, TPやAPを書くことにより, 自分が行っている活動を俯瞰的に見ることができるようになり, 今行っている活動や今後の活動を理念と関連付けて考えることができるようになる. このことは, 教員が教育・研究・サービス活動に従事するモチベーションや, 仕事の質を向上すると共に, 満足度を高めることが期待できる. また, 近年では, TPWSやAPWSの手法を参考に, 一般社会人の人生の核心を探求するライフ・ポートフォリオ⁽³⁾ と呼ばれる講座も開講されており, メンタリングにより人生や仕事の核心を探求するWSが, 複数の分野で開発されつつある.

今回 TPWS で使われているメンタリング手法を利用して, 科研の申請書を書くためのWS (KKWS) を

開発した. KKWSでは, メンターが科研の申請書を書くメンティーの話を聴き, 質問を投げかけながら, 本人が研究内容をより明確にするサポートを行うことを目的とする. 本報告では, 実施して分かったTPWSとKKWSの違い, および, その効果を報告する.

2. KKWSの設計と実施

TPWSとAPWSの経験から, KKWSにおいて外してはいけない重要な点として, 以下の2点を設定した.

◎重要な点

(1) KKWSでは, 書き方のアドバイスをする場所ではなく, 自分が実施している研究の本質(何のためにその研究を実施するのか)を探求し, 明確にすることを主な目的とする.

(2) 研究の本質の探究方法は, メンティー(申請者)がメンター(相談役)のサポートを受けながら探求するというメンタリングの手法を採用する.

◎設計方針

この2つの重要な点を元に, 実際には, 以下の方針でKKWSを設計した.

(1) 土曜の午後(13:00)から日曜の夕方(17:00)までの延べ11時間のWSとし, 必ずしも完成は目指さ

- ず、研究の本質が明確になる、ことを目標とする。
- (2) ピア・メンタリングではなく、メンター専任要員を配置する。ただし、他の TPWS などでもメンター経験があり、かつ、代表研究者として科研費の採択経験があることをメンターの条件とする。
- (3) 最終成果物は科研の申請書であるが、この WS 内で完成を目指すのは、最初の 3 ページ（概要および研究の目的と方法）とする。

この方針に沿って、実際の WS を設計したが、実際には 2017 年 9 月 23 日（土）～24 日（日）にかけて実施した。今回の参加者は、メンティーが 3 名、メンターが 2 名の計 5 名であった。具体的な WS のスケジュールは以下の通り。

◎1 日目：2017 年 9 月 23 日（土）

- 13:00～13:30 オリエンテーション
- 13:30～15:30 メンタリング
- 15:30～17:00 調書書き
- 22:00 までに、初稿の提出

◎2 日目：2017 年 9 月 24 日（日）

- 9:30～11:30 グループメンタリング
- 11:30～12:00 調書書き
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～15:00 必要ならメンタリング
- 15:00～16:00 調書書き
- 16:00～17:00 書いた調書を皆にプレゼン

計画段階では、2 日目の朝のメンタリングは、個人メンタリングであったが、メンターチームで議論した結果、グループメンタリング（メンティー3 名とメンター2 名の全員が一同に会してメンタリングを行う）を試行することになった。

3. 評価と改善点

今回、初めての試行だったので、質問紙による評価は導入していない。しかし、終了後、30 分程度を使い、メンティー、メンターに各々感想と今後への改善点を語ってもらったので、その中ででたいくつかの点を報告する。

まず、全体的な感想であるが、複数のメンティーから、「視野が広がった」という感想が出された。また、2 日目の朝のグループメンタリングでは、他のメンテ

ィーの進捗具合がわかり良かったという意見が、メンティーから聞かれた。ただ、グループメンタリングの中では順番にメンティーの話を聞いていくので、参加人数によっては時間的に実施が難しいだろうという意見も出された。

今回、1 日半で KKWS を実施したが 2 日間かけても良かったか、というメンターからの問いかけには、概ね、メンティーは 2 日間かけても良かったという回答であった。2 日間かけるのであれば、1 日目の最後にグループメンタリング設定し、それを中間発表的として機能させてはどうかというアイデアが出た。

4. TPWS と KKWS の相違点

当初は TPWS の違いはあまりないだろうという予想であったが、実際にメンタリングを行ってみると、アドバイスをした方が良い場合が比較的多くあった。TPWS では、アドバイスは最小限にして、メンティーの中にあるものを引き出すことに最大限の労力がさかれるが、KKWS の場合、もちろん、そのことにも重きを置いているが、TPWS に比べるとアドバイスしたほうが良い場合が多くなる。これは、審査員を想定して、審査員が理解しやすいように構成や表現を修正する必要があるためかもしれない。

5. 考察

事前課題と最終成果物との差を見ても、参加者のコメントをみても、今回の KKWS は比較的うまく機能したと考えられる。しかし、この WS を継続的に開催するには、メンターの確保等課題も多い。

参 考 文 献

- (1) 栗田佳代子訳、ピーター・セルディン著、「大学教育を変える教育業績記録」、玉川大学出版部、2007。
- (2) 栗田佳代子訳、ピーター・セルディン、J. エリザベス・ミラー著、「アカデミック・ポートフォリオ」、玉川大学出版部、2009。
- (3) 山川修、杉原一臣、江寄和子、「アカデミック・ポートフォリオ作成 WS の手法を参考にした社会人向けのライフ・ポートフォリオ講座の設計と実施」、日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集、pp.203-204. 2016。